契（ちぎり）通信VOL.210

２０２３年８月２８日発行
株式会社チキリ　社長室編集

処暑

先月号で気象庁の８月の天気の予想をこの欄に書きましたが、ズバリ的中しました。「全国的に気温が平年より高い」「お盆期間中も、体に堪えるような暑さの日が多い」「気温が上がり大雨になる」という予想でした。こんな予想は当たらない方が良いのに、恐ろしいほど当たっていました。

先週の２３日は二十四節季で言うところの「処暑」でした。処暑は、「暑さが和らぐ」という意味だそうです。朝夕には涼しい風が吹き、心地よい虫の声が聞こえてきて、同時に台風が発生する頃を言う様です。

しかし、虫どころかあまりの暑さに蚊も鳴りを潜めています。蚊は３５℃を超えると活動が鈍くなるそうで、厳しい暑さで蚊が夏バテしているのでしょう。また上陸する様な台風もすでに幾つも出ています。

季節を表す言葉も今は昔となってしまいました。それにしてもう少しだけでも涼しくなって欲しいです。体にこたえます。

代表取締役　服部厳一郎

なんだ・かんだ

◆　育休の取得　◆

先日の日経新聞に、『男性育休、代替要員の壁　職場 8 割「補充せず』という記事が出ていました。厚生労働省の調査では、男性の育児休業取得に際し休業中の代替要員の補充は 8 割の職場で出来なくて取得促進の重荷になっているということです。

また、同省が 7 月に公表した調査では、男性の育休取得率は 5 年前は 5%ほどだったのが 2022 年度に 17.13%となり少しずつ増えていますが、政府が掲げる「2030 年に 85%」とする目標には遠くかけ離れています。

課題の一つが育休を取る社員を代替する要員の確保だそうで、育休取得者がいた場合の対応について「代替要員を補充せず、同じ部門の他の社員で対応した」との回答が、最新となる 21 年度の数字で 79.9%に達し、19 年度の 52.3%を大きく上回っており、この数字は男性育休の数が増えるのに従って上昇しているそうです。

日本商工会議所などが中小企業を対象に実施した別の調査でも、男性育休の課題として「代替要員が社内にいない」との回答が半数を超えています。取得率は企業の規模が小さいと低くなり、職種別でも差があり、22 年度調査の産業別では、当社も属する就業者数が最も多い「卸売・小売」が 8.4%と一番低かったということです。

当社では、これまで男性の育休取得者はいませんが、女性では 3 名で延べ 6 回の取得歴があり、6 回共それぞれ 1 年数カ月の休暇を取得しています。職種の内訳としては、2 名が事務職、1 名が営業職ですが、事務職に付いては、有期雇用のパート又は派遣に依って代替要員を確保することが出来ました。一方、営業職の女性に付いては、補充が出来ず同課の男性社員が補充なしで対応して参りました。休業した者の職種が建設業でしたので、受注に付いては物件の請負となるので、売上は下がりますが一人当たりの受注を調整できるので対応できたと思っています。

一方ルートセールスの様に決まったお客様の担当が休業した場合、別の営業マンで１担当のすべてをカバーする事は、同一課で営業マンが何人もいれば出来るかもしれませんが、少数で切り盛りしている我々の様な中小企業にとっては、働き方改革もある中かなり難しいことです。１～２週間ならともかく、数カ月となるととても出来ないと思います。

厚労省の育休の統計は 1 日休んだだけでも「育休をとった人」として取得率にカウントされるということです。育休が進んでいる大企業が加盟する経団連の調査では、男性と女性の取得日数に大きな差が出ています。男性の育休取得率は 47.5%に達していますが、取得期間は平均 43.7 日ということです。これに対して女性の育休取得期間は 367.1 日と大幅に上回っています。我々中小企業に勤める男性が 1 ケ月を越える育休を取得できることが難しいことは歴然です。

とは言え、今後の日本における最大の課題である少子化対策において、「男性の家事・育児参画の促進」は取り組むべき重点課題です。男性が長期休暇を取らなくても子育てに協力できるシステムはないでしょうか。

先日「少子化対策よりも婚活」という話を掲載しましたが、少子化の先に「人材倒産」という言葉が透けて見えます。黒字であっても人が居なくて倒産してしまう。そんな時代が目の前に来ています。

社員ブログ

●　生涯の趣味として　●

営業二課　武田　亜子

友人と時折お邪魔するバーがありまして（コロナ禍でご無沙汰をしていますが）、そこで友人が「なんて言ったっけ、あのウイスキー。東野圭吾の小説に出てくる…　あります？」と聞いたところ、「ありますよ」と言って出てきたのが、アードベッグ。これが私の、ハイボールではないウイスキーとの出会いだったように思います。（飲み方はどうする？　“凄い”けど、試してみる？ということで、ストレートでした。このときは友人が飲み、私は香りだけ。）そのやりとりでスマートに正解を差し出す姿に、バーテンダーってすごい！と痺れ、アードベッグの医療的ピート香に驚愕。

興味を持って調べ、ウイスキーがグラスに注がれるまでを知ると、すっかりハマりました。その世界は深く、一生をかけてもほんの一握りしか試せない。これも、惹かれる理由のひとつです。

家では、ティーチャーズ　ハイランドクリームとモンキーショルダーを定番にしています。一方で、グレンフィディックのように華やかなものも好きです。

モルトのほうが好みで、バーボンは少々苦手。トワイスアップが精一杯の、まだまだ初心者です。

部屋に『もし僕らのことばがウイスキーであったなら』があるはずなんですが、見つかりません。

ウイスキーと、これもまた生涯の趣味である本とは、時の流れ方が近く相性が良いように思います。

■　施工管理技士の資格要件緩和　■

国交省は建設業の人手不足の解消に向け、2024 年度から現場監督を担うために必要な国家試験の受検要件を緩和しました。第一次検定で学歴別に求めている実務経験を不要とし、19 歳以上であれば誰でも受検できるようになります。若い世代や他業種からの転職を促すのが目的です。

第一次検定の合格後、第二次検定の受検資格として、実務経験年数も 3 年の実務経験となります。2 級の受検要件も 1 級同様緩和されます。

建設業は資格が無ければ工事を請負うことが出来ません。少子化の中ありがたい話です。

本レターのご提供に付きまして、ご不要・ご迷惑という方に付きましては、その旨ご一報頂きたいと思います。次回からの発送を中止させて頂きます。

株　式　会　社　チ　キ　リ
静岡県駿東郡清水町卸団地 73
Tel 055-971-9610　Fax 055-973-1534
E-mail gen@chikiri.com　URL http://www.chikiri.com/